mifi news

《ゴルファー桜の森》除幕式は大成功！

68

2018年11月

NPO法人　宮城県森林インストラクター協会

クマの出没

会長　14期　髙橋　孝紀

梅雨入り前の5月28日、県民の森でクマの目撃情報がありました。以前にもクマの目撃情報がありましたが、この日は1日に3件と、たて続けの目撃情報でした。3件の中の1件は県民の森のアスレチック近くの藪での目撃情報でありました。

目撃されたクマの大きさは人に危害の恐れが少ない小熊であり、親離れの時期で自分の生活圏を探し求めていたものと思われます。

県民の森では、県の自然保護課と連携して、当日5月28日からアスレチックの使用禁止とアスレチックに通じる散策道の入り口に進入禁止の表示、アスレチック周辺の刈払いによる見通しの確保を図り、出会いがしらのクマとの接触防止の策を講じました。加えて巡視体制をとるとともに館内放送による注意喚起を図りました。対策以降、クマの目撃情報はなく、アスレチックの利用禁止は6月12日をもって終了しました。その後のクマの目撃情報は園内では無くなりました。周辺では少なくなったとはいえ、未だにクマの目撃情報が報告される状況であります。他の受託施設である「ことりはうす」や「こもれびの森」森林科学館では、施設周辺にクマの足跡が散見され、目撃情報も多い地域でありますが、いずれも施設の一部が利用禁止になることはありませんでした。「クマなんて森にはどこにでもいる」・「児童の安全が第一だ」など様々な意見がある中で、特に人間の多い地域、人間の生活圏が明確なエリアではクマとの棲み分けが難しく、悩ましい問題になっております。県のホームページでも県内のクマ出没情報が掲載されており、日々更新されております。

植物の話になりますが、外来種のタンポポと在来種のタンポポでは生活圏の棲み分けが明確になっていると聞きます。外来種のタンポポは概して花も大きく、種の数も多い。交配時期が長く、種も軽く遠くまで飛ばせる。又、自家受粉も可能であり一気に勢力を拡大したといわれます。一方で在来種のタンポポは春しか花が咲かない。他の植物が生い茂る日本の里山の環境の中で、夏の間は根だけを残して「夏眠」する。外来種のタンポポは他の植物が生えないような都会の道端で四季を通して花を咲かせ、都市化したエリアでしか生きられない。里山のような環境では在来種のタンポポが花を咲かせます。外来種のタンポポが在来種のタンポポを追いやり、今や我が者顔に私たちの周りに住みついているという人がいます。しかしその実、外来種のタンポポの拡大は人間の生活圏が都会化することによって広がっていったようです。クマもタンポポも都市化が本来の棲み分けを崩していったのかもしれません。

クマもタンポポも与えられた命を次の世代に引き継ごうと、無心に、必死になって生を全うしようとしています。親離れして自立しようとした子熊が自分の安全な生活領域を探し求めて、涙ぐましい努力で生き抜こうとしています。

あの子熊は今頃何処にいて、何を考えているのでしょうか。もう少しで冬ごもりの時期がやってきます。ゆっくり冬眠できる場所は見つかったのでしょうか。そして、暖かな来る春の夢を見られるのでしょうか。

目次

P.1　巻頭言
P.2　きかくがいろん
P.3　環境・森林事業部
P.4　研修部
P.5-7　活動報告
P.8　安全委員会／リレー式
P.9　インストラクターQ＆A
P.10　インフォメーション／編集後記
P.11　施設だより

～きかくがいろん～ 我々の存在意義 考

1期　木村　健太郎

～森林インストラクター不要論～

いきなり変な話ですが、もう森林インストラクターはやめようという思いが年々強くなってきています。

クマの目撃情報ひとつで町中が「外に出るな」と騒ぎ立て、マスコミは挙ってハチが危険だダニが危険だと人々の恐怖心ばかり煽りたて、人をどんどん自然から遠ざける時代が進行しているように思います。

各地域を代表する散策道も、藪化が進んで見通しが悪く、空を見上げれば、今にも倒れてきそうな枯れ木が不気味に並んでいます。

そんな殺人的な遊歩道で出会う散策者は、不快な鈴の音をカランカラン鳴らしながら足早に歩き、こちらの挨拶も聞こえない様子。風通しが悪く湿度も高いからいから蚊やブユがやたらと多く、森を歩いてもストレスが溜まるだけです。

もう、自信を持って「森においで」と言えなくなってきました。

自然観察会を開催しても、ほぼ全員がスマホを見ながら歩いていて、そもそもネットの情報量にかなうわけがないから、次第に話ができなくなってしまいます。

自然観察会の醍醐味は、たくさんの自然の不思議に出会い、考え、さまざまな感性を研ぎ澄ませて本来の自然を感じていくところにあります。不思議も何も片っ端から調べてしまい、カシャカシャと写真ばかり撮影し、画面ばかり確認していたら、いったいどこで本来の自然を感じるのでしょうか。自然観察会までもが都会化してしまっているのです。

人間がスマホにコントロールされて社会のほとんどが都会化し、自然を排除し、快適な自然体験フィールドが求められずに減りつつある現在、我々森林インストラクターもどんどん不要になっているように感じざるを得ません。

森林インストラクターのみならず、自然ガイドを志す方は年々減少しており、逆に自然観察会を企画しても参加者が来ないという相談はどんどん増えております。その度に「企画に魅力がないんでしょう」と答えていますが、自分で発した言葉が自分の胸にも突き刺さってきています。

～　子ども文化　～

珍しく広報誌をいろいろと読み漁っていたら、久しぶりに「子ども文化」という言葉を目にしました。

「子ども文化」とは、大人の常識やルールや利害関係などとは別次元にある、子どもたちの遊びの中で自然発生的に生まれてきた自然遊びやものづくりという意味で使われていたと思います。

しかし、最近は子どもたちの遊びさえ大人の都合でコントロールされているので、「子ども文化」の意味が変わってしまっているか、あるいは既に無くなってしまっているかもしれません。

これまで、人間は「子ども文化」から「想像力」「協調性」「忍耐力」「思いやり」「自己表現力」「俊敏性」など、生きるために必要な数え切れないほどのスキルを身につけながら成長してきたわけですが、「子ども文化」が無くなってしまったら、人間はいったいどうなるのでしょうか。

その答えが出るのはこれからですが、その時にはもうこの世にはいたくないような、ものすごく嫌な予感がしています。

「子ども文化」は自然発生的なものなので、企画で伝承していくことは困難です。ただ、「子ども文化」が発生しやすい環境づくりを進めていくことはできると思います。このことが必要なのであれば、我々宮城県森林インストラクターの存在は、まだまだ強い光を放ち続けます。

忙しくて憂鬱になる中、このことを確認したかったので、2回目のイベントを迎える「東京エレクトロンの森」（大和町）で賭けに出ました。

「東京エレクトロンの森」は、小沼を周回するルートを切り開けば素晴らしいフィールドになることが見えていましたが、行く手を阻む20本以上の今にも倒壊しそうな枯れアカマツ、見るからに危険な崩落地、歩道にはたくさんの切り株が飛び出しており、とても人を入れられるような環境ではありません。

しかし、子どもたちにとっては「危険ほど面白い」。そして、そのことに理解のある企業だと勝手に決めつけて、とても時間のない状況で切りかかりました。もちろん、仲間たちの底力をどこまでも信じてのことです。幾多の不可能を可能にしてきた世界最強チームです。

イベントラッシュの末期でテンションが高かったこともありますが、危険な枯損マツは全て自分で倒したかったので、1人で立ち向かいました。そして、何度か死にそうになりながらも、気づいた時には見事に周回の散策路が完成していました。みんなの整備力がありすぎて、安全で素敵にしすぎたかもしれません。

イベント当日、崩落地を一目散に駆け上がり、また沼でずぶ濡れになりながら網を入れている子どもたちを見て、我々の目が黒いうちは「子ども文化」が消えることはないという自信を再確認することができました。そういえば、子どもたちはスマホなど持っていないのでした。

『企業の森づくり』について

環境・森林事業部
３期　原　恒夫

何やら意味のわかりにくい言葉として企業の社会的責任（ＣＳＲ）が叫ばれていますが、それに呼応して宮城県では「企業の森づくり」について大きく分けて三つの制度を推進しています。一つは宮城県農林水産部森林整備課が推し進める「わたしたちの森づくり事業」と二つめは宮城県環境生活部自然保護課のみやぎの里山林協働再生支援事業として「みやぎの里山コモンズ・パートナーシップの森林づくり」があります。三つめとして震災後は津波で流された海岸林再生を目的とした宮城県農林水産部森林整備課治山班の「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」があります。

前二者は平成18年度から始まり県有林や民有林を提供して森林づくり活動などを行い、森林環境教育の場として活用しています。三つめの「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」は平成26年度から取り組みはじめています。

当協会はこれら県と企業のコーディネート役を担って様々な活動のお手伝いをしています。

では個々に具体的活動内容と問題点を探ってみましょう。

「わたしたちの森づくり事業」の最初は「宮城県ＥＮＥＯＳの森」で最新ではネッツトヨタ仙台㈱の「そらっぱえがおの森」など約20の森があります。特に「宮城県ＥＮＥＯＳの森」・「ぐりりの森」・「森から考えるＥＳＤ学びの森」は県民の森とグランディ21との隣接地にあり、各地の小中学校や地域団体親子を招いて「ふれあい森林教室」を開催して環境学習の場として多いに活用しています。しかし、数箇所の企業の森は途中で断念したり更新せずで元の藪地に戻りつつあります。協会では最低限の維持管理に努めていますが予算・人員的にも限界があり早期に代替企業の誘致が必要です。

ふれあい森林教室多賀城

二つめの「みやぎの里山コモンズ・パートナーシップの森林づくり」は県内に20数箇所の企業の森があります。

当協会が関わるのは利府町の「イオンの森」と大和町宮床の「東京エレクトロンの森」そして県民の森内四季の森のセルコホーム㈱など９企業の森があります。

今年10月初めには公益社団法人ゴルフ緑化促進会主催で、はやぶさの道といつきの道の間の藪地を切り開き120本の桜の植樹を行い「ゴルファー桜の森」が開所しました。来年４月にも残り180本の２回目の植樹祭を行いますので冬場の地拵えから多くの方々の参加をお願いします。ここが将来、県民の森の新名所となるように維持管理していきたいと思います。

ゴルファー桜の森植樹

三つめの「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」は南は山元町から亘理町・岩沼市・仙台市荒浜田の神地区・同北官林・七ヶ浜町・東松島市で「クミカの森」・「ゴルファー未来の森」・㈱ジャパンクリーンの「きぼうの森」「ホーマックの森」・「カワイの森」ネッツトヨタ仙台㈱の「そらっぱクロマツ防災林」などに抵抗性クロマツを基本とした植樹を行いました。これから数年間は補植と除草などの保全活動が必要です。

カワイの森仙台荒浜北官林

このように企業の森づくりは一朝一夕にできるものではなく計画的・継続的な活動が重要で、代々子孫に残せる美しい森づくりのお手伝いをしていきましょう。

森林インストラクター、海に行く

研修部　14期　森山　稔也

私たちが、海岸防災林再生植樹に本格的に携わるようになり4年が過ぎようとしています。海岸での活動の頻度が高くなり、今後も海岸に行く機会が多くなりそうです。そこで、今回はビーチコーミングを取り上げてみたいと思います。

さて、ビーチコーミングとは何でしょう。ウィキペディアによるとビーチコーミングとは、海岸などに打ち上げられた漂着物を収集の対象にしたり観察したりする行為。漂着物を加工したり標本にしたり装飾にしたりして楽しむ。本来の意味は売り物になる漂着物を拾い集めることで、骨董の世界では「海揚がり」と呼ばれてきた。と説明されています。海辺の宝探しといったほうがイメージしやすいかもしれません。砂浜で観察できるものや拾えるものが対象なので、海から来た自然のものでは貝殻、海藻など、人工物では浮きなどの漁具、釣り具など、野山からの来たものでは流木や木の実、街からの人工物ではビン、缶、生活用品、おもちゃ、プラスチック製品などなどです。こうやって書き連ねると宝というよりもゴミと言ったほうがしっくりくるような感じです。実際、浜の漂着物の多くはゴミで、中でもプラスチックのゴミが多く、世界的な問題になっているのも納得できます。海のものから山のものまで種々雑多な漂着物の中で、美しい貝殻やビーチグラス（シーグラス）などがお宝感を感じられるのではないでしょうか。ビーチグラスは割れたガラスびんが漂着したものですが、波に洗われ、鋭い角がすっかりとれたものが収集にはよいでしょう。白や薄緑色、茶色が代表的な色ですが、ごくまれにピンク色のものもあります。収集対象としてもうひとつ、貝殻は外せないでしょう。宮城県では南方の海のような美しい貝殻は拾えませんが、運が良ければサクラガイや小さなツメタガイ、ナミマガシワなどの美しい貝殻が拾えます。お宝は取集しても楽しいものです。

ビーチコーミングには特に決まったお作法はありませんが、注意しなければならないことが何点かあります。ポリ容器に入った正体不明の液体（強酸や強アルカリ、毒物などの可能性があります）、注射器、アカエイなどの毒針を持つ生き物、それらのものには絶対に手を触れないこと。大きな波が来ることがあるので海に背中を向けない。地震や雷の際はすぐに退避する。これらのことを注意し安全にビーチコーミングを楽しんでいただきたいと思います。浜で見つけられるものの中には見慣れないものが多いと思います。ガイドブックを1冊持っていくと、その正体を調べるのに便利です。入門用のコンパクトなものでおすすめなのが、浜口哲一著、文一総合出版の「海辺の漂着物ハンドブック」です。初心者がビーチコーミングにでかけるときの、注意点、漂着物の解説、と必要なものが網羅されています。

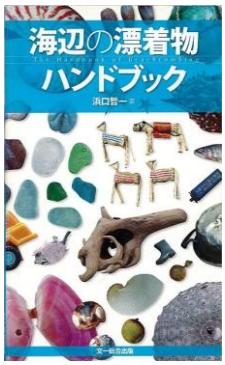
協会の活動の中でのビーチコーミングをいくつか紹介します。6月26日に六郷小学校の植樹イベントの際、深沼海水浴場でレジンペレットや貝殻を拾いました。レジンペレットとは、直径3㎜ほどのプラスチックの粒です。世界中の海に拡散し、海鳥や魚などの体内からも見つかり、生き物への影響が懸念されています。問題のレジンペレットを拾うことにより、参加した児童に環境について考えてもらうことがねらいでした。

貝殻やレジンペレットを拾う六郷小の児童

9月8日のみやぎ自然環境サポーター養成講座では、七ヶ浜町の湊浜で受講生にビーチコーミングとゴミ拾いを体験してもらいました。少しずつですが協会の活動にも取り入れられています。

ウミガメの死骸を発見

来年も海岸防災林関連の様々なイベントが開催され、海岸に出かける機会が多くなると思います。海をテーマにしたクラフトを無茶振りされる危険も考えられます。これから寒くなりますが、シーズンオフのこの時期、来年開催される海岸でのイベントに備え、風のない暖かい日を狙って海に出かけてみてはいかがでしょう。人気のない浜に、新たな発見や、新しい世界との出会いがあるかもしれませんよ。



「海辺の漂着物ハンドブック」
浜口 哲一 著
文一総合出版

県民の森に桜の名所を！

桜植樹祭 in 県民の森～ゴルファー桜の森　第１回植樹活動

戦後植えられたソメイヨシノの樹勢が弱まり、花見の名所の存続が危ぶまれています。そんな状況の中で県民の森の中に桜の名所を作ろうと、四季の森で全国のゴルファーからの寄付金を活用したサクラの植樹活動が始まりました。10 月 6 日(土)には、公益社団法人ゴルフ緑化促進会の大西理事長、遠藤専務を迎えて開所式セレモニーが行なわれ、総勢 115 名で、ジンダイアケボノ、オオシマザクラ、オオヤマザクラ等 120 本を植樹しました。午後からは見晴らしのいい丘でネイチャークラフトを楽しみました。

将来はゴルファーを目指すかな、
大西理事長は人気者

いつも華やかな遠藤専務も記念植樹

みんなで植えた木は家族の記念

「大きく元気に育ってね」、
と願いながら植えるんだよ

「ちゃんと植えたよ」と語り合う二人

こんなに面白い笛を作るぞー！！
集まってね

しんどう委員長の、奮闘取材記

復興マラソン植樹活動

10月13日(土)に岩沼市寺島地区で植樹活動を行いました。「東北・みやぎ復興マラソン２０１８」を翌日にひかえたランナーとファンランを走り終えた親子152名が参加。ランナーの半数は仙台空港を利用した遠隔地からの参加でした。ランナーのコンディションを心配する会員をよそに、精力的に植樹をこなし、大きくなった姿をまた見に来るとしっかり場所も確認していました。手慣れた手つきの参加者は、九州から訪れたという79歳。1週間後にも100キロマラソンに出るのだとか。バイタリティ溢れる姿に力をもらいました。招待選手の野尻あずささんは、「ランナーとしてできることは走りに行くこと、各地に走りに行ってつながりを作ることで復興のお手伝いをしたい、見聞き体験した被災地の今を地元に帰って伝えたい」と挨拶しました。

ふれあい森林教室

10月30日(火)、仙台市立六郷小学校の３年生111名が夏の海岸林の植樹・保育活動に続き３回目の活動として「森から考えるESD学びの森」にやってきました。午前中は森の中で遊歩道や広場を作ったり、枝工作や葉っぱのマジックに挑戦したりしました。素直に喜んでくれる子どもたちに熟練の技を披露する会員にも熱が入りました。午後は青少年の森に移動し、ネイチャークラフトや自然観察、ミニ野球等をして自然の中での遊びを満喫しました。女性会員も13名集結し、にぎやかさ、楽しさが倍増した活動となりました。

東京エレクトロンの森
第２回植樹＆森づくり活動

11月10日(土)、大和町宮床の「東京エレクトロンの森」で71名が参加し森づくり活動が行われました。大人チームは遊歩道整備を担当。沢に丸太の橋をかけ小沼を１周する散策路が完成しました。家族チームは植樹や巣箱かけなどの１０個の指令をクリアしながら紅葉の森を歩きました。活動２年目となり整備が進んで昨年と比べるとずいぶんきれいになったと社員の方々も喜んでいました。宮城を代表する美しい森にしていきたいと意気込んでいます。

西コミ自然ふれあい学校・秋

19期　横山　美喜子

8月の夏の活動から約3か月。秋晴れの好天の下、秋の「西コミ自然ふれあい学校」が開催されました。今回が今年最後の活動になるとあって、インストラクターの面々は大張り切り。50名近くの親子に、様々な仕掛けを用意して臨みました。

開講式に木村さんが持ってきたのが3種類のキノコ。「毒キノコが一つあるけどどれでしょう?」という質問に会場は盛り上がります。そして「クリタケというおいしいキノコがたくさん出ています。」という話にさらに期待が膨らみました。

いよいよ7グループに分かれ、コミセン周辺の森で自然観察。イノシシの足跡や鼻で掘った跡を見つけたり、茶の花や実、カマキリの卵を観察したり。私が引率した5人の男の子たちは、個性的でそれぞれ興味のあるものが違い、いろいろな場所で立ち止まっては新しい発見をしていました。

続いて森づくり活動に挑戦です。①ヤーコン収穫・スナップエンドウ植え②サツマイモ・ラッカセイ・モッテノホカ収穫③遊歩道づくり④階段づくり⑤遊歩道をレーキで掃除⑥さんぴょんビオトープの橋補修工事⑦バタフライガーデンの花と球根植え⑧巣箱づくり　これを50分で！と最初は驚きましたが、担当の講師が様々な工夫をして、子どもにとって満足のいく楽しい活動にしていきました。未就学児から小学校中学年まで、その日来たばかりの児童に限りある時間の中で楽しい活動をさせることは、本当に難しいと思いますが、それをさらっとやってのける講師の技にとにかく感服！でした。

お昼には、インストラクターの別動隊が、収穫したモッテノホカやヤーコンを調理し、みそ汁まで作って提供し、親子は大感激。そのあと待っていたのがネイチャークラフトです。子どもたちは8つのテーブルで、クラフト自慢の講師陣が腕によりをかけて準備した工作に挑戦しました。私も事務局がおぜん立てしてくれたブンブンゴマの講師に。夢中で作っているうちにいつの間にか時間になっていました。

閉会式後、掘ったダイコンをお土産に帰宅する親子の顔には、たっぷり体験をした充実感と満足感があふれていました。

大きい大根掘ったよー！！

キャリアシップ（職場体験）

2期　進藤恵美

利府町のキャリアシップ事業に協力し、11月12日（月）から16日（金）までの5日間、町内中学2年生の職場体験を受け入れました。

利府西中学校から青少年の森に男子生徒3名、県民の森に女子生徒3名が体験に来ました。森を訪れるのは幼稚園の遠足以来とのこと。近いのに利用されていないことにビックリ、もったいないことだなあと思いました。

青少年の森組の初日はまず、協会の主な活動についての講義。企業の森づくり活動に協力し、環境活動や森林整備、植樹活動を行っていること、震災復興関連として井戸掘りや海岸林の植樹・育樹を行っていること、森林公園施設の管理を行っていること、近年は小学校で森の体験授業をしたり、学校の森の手入れをしたり、ネイチャークラフトを楽しんでもらったりしていることなどを紹介しました。

職場体験のしおりを見せてもらうと、毎日3つのことをチェックすることになっていました。①楽しかったこと、興味を持ったこと②大変だったこと、困ったこと③学んだこと、気づいたこと。1日の行動結果と共に自己評価も記入するようになっていました。当協会での職業訓練のテーマは「森に学ぶ生きる力」。学校では教えてくれない生きるすべを身につけさせたいと講師陣は意気込んでいました。

挨拶も、きびきび、さわやか

県民の森組の女子生徒は、アスレチック点検記録表を手に安全点検の実習。木製の遊具の痛み具合やロープの張り、切れた箇所がないかどうかを入念にチェックしました。合わせて枯れ枝の落下や倒木の危険がないか遊歩道の安全も確認。来場者が安全に楽しく遊べるように毎日の点検は欠かせないとの説明に安全を守る事の大変さを痛感した様子でした。

生徒達は環境整備や、森の整備活動など5日間で様々なことを体験。最終日には総仕上げとして、福島県伊達市から「ふれあい木育教室」に参加した小学校の児童を相手にクラフト指導をしました。

体験し、学んだことを他の人に教えるところまでを組み入れたいいプログラムとなりました。

安全のページ

ストレッチについて

18期　相沢　優

暦も11月中旬。森の活動も寒さに向かいながらちょっと厳しい季節に向かいます。私は、ジョギングで汗をかいて仕事のストレスを発散しています。運動することは、健康にいいかと考えますと、必ずしもいいことだけではありません。

運動をすることで生じる「けが」は、準備不足、頑張りすぎ、無理のしすぎ等が主な原因かと思います。森林活動におきましても、みんなで活動前の安全確認に関するミーティングはするかと思いますが、「活動が出来る**体の準備**」は、適切に行っていますでしょうか。

ラジオ体操だけではなく、当日の活動に対応したストレッチを大切にしていただきたく、ちょっとだけ紹介します。ストレッチは３種類、運動（活動）前後で異なります。

①体を**じわー！**っと伸ばす

同じ姿勢をキープし、じっくり筋肉を伸ばす方法」。準備運動といいますとこのストレッチを皆さんしています。例：アキレス腱や体を曲げてじわー♪

②**反動をつけて**行う

反動をつけて行うストレッチは、イメージしやすいのがアキレス腱をグッグッと反動をつけて伸ばすストレッチ。無理をしますと筋肉を傷めるので緩やかにです。

③**カラダを動かしながら筋肉をほぐす**

カラダを動かしながら行うため心拍数の上昇とともに、体が温まり筋肉が温まり、ほぐれてきます。

◆活動前に行うストレッチ

ケガを防ぐための準備体操。これまでのような筋肉の柔軟性を高める筋肉を伸ばすストレッチ（①）を行うことは、「ケガを防ぐ効果がない」という研究があります。**けがの予防**に必要なのは、足を大きく振り上げる、腕を大きく回すなど、勢いよくカラダを動かしたときの可動域の広さ＝**「動的柔軟性」**を高めるストレッチです。**※③のストレッチ**

◆活動後①のストレッチですよ！

疲労回復には、体のケアが大切です。活動後は、ゆっくり筋肉を伸ばすことで、心身ともにリラックスできます。ぱっ！ぱっ！と済ませては、効果がありません。体をじわー！っと伸ばしましょう♪

活動前　体ほぐして　けが予防！
活動後　体伸ばして　けが予防！

閖上の海岸
松林の一本道の風景に
思いを馳せて ^_^

この一本道をジョギングするのも楽しいです。

マラソン人（びと）と森人（もりじん）

17期　大野　利之

2013年３月　60歳の定年を１年残し長い間勤めたサラリーマン生活に終止符を打ち、2014年４月からスポーツ施設に就職したのですがモヤモヤが残ったままでした。それは、この仕事で良かったのか？残りの人生、自分の本当にやりたい事って何だろう？でした。キーワードを箇条書きにして順番をつける事を何度も繰り返してみました。その結果、１「マラソン」、２「自然」でした。

マラソンはフルマラソン初挑戦が東京マラソンでした。2015年２月　ワクワクドキドキの東京マラソンでしたが４時間27分で完走しました。フルも走れるんだ！もっと本格的に走りたいと思い、翌月には「仙台明走会」というサークルに入会しました。サークルは９月第１週に開催される「みやぎ湯めぐりウルトラ遠足」大会を主催したり、仙台ハーフや復興マラソンなどのペースランナーなどを依頼されたりと、裏方としてお手伝いすることも多くあるサークルです。そんな関係で2017年の第１回復興マラソンでは「林家たい平」さんの特番ＴＶ製作のお手伝いをさせていただきました。

現在私は、走るだけではなく、大会のスタッフやボランティアの関わりも増え、マラソンをより深く極めたいと思った目標に近づきつつあるのではないかと思っています。

さて、２番目のキーワードの「自然」です。遠刈田温泉に別荘でも持ち、自然の中で暮らそうか、それとも丸森の「クラインガルテン」にしようかな、貸し農園もいいな！などと考えていた時に、県政だよりの「森林インストラクター養成講座」の記事が目に留まりました。そうだ、私のやりたい事にぴったりだ、何よりも気に入ったのは多額投資の必要もなく、（自分の敷地のように）自然の中で汗を流せる事でした。スポーツ施設の上司と同僚には「マラソン人（びと）」と「森人（もりじん）」になりたいので年度末で仕事辞めます！と宣言して、現在に至っています。

最近、松島でハイキングやランニングツアーを企画運営してるラン友のお手伝いをする事になり、何度か松島の森に入ったのですが、マラソン人と森人がうまく融合するのではないかと気づきました。マラソンとピクニックを融合すると「マラニック」、トレイルとランニングは「トレラン」ですが、それらとも違うなんか面白そうな事が出来ないかと思いを巡らせている今日このごろです。

林家たい平さんと

次は17期の森谷清一さんにリレーします。

【教えて！手の内・魅アイデア！】

編集会議にて、自然体験活動に自信がないという声が出ました。そこで紙面を借りて子どもたちとの活動の際に、参加者を引き込む魅力的なネタをベテランインストラクターに聞いてみました。

秋から冬編　5期　日下　晃

（下踏査）この季節は、寒風と茶色の風景なだけに変化が少なく、インストラクターの腕の見せ所である。小さくても元気に生きる生物に出会うとテンションが上がる。歩く道を踏査しネタを探し、頭を整理する。

（出会い）今日はどんな子どもたち（学年や男女）かな？『花？　虫？　木の実？』どんな話題が良いのか適宜判断する。下踏査で見つけたやまびこ（ウスタビガの繭）やクズの蔓のリースを見せながら、トークで活動への期待と意欲を膨らませたい。

（今日のテーマ）下踏査や出会いの中から、今日のテーマを決める。『草の実やどんぐり』『紅葉』『冬芽と葉痕』『昆虫の冬越し』『冬に咲く花』『枯草の造形』等二～三に絞り、季節を感じる木々や植物を見つけながら散策と草木遊びを開始する。

（県民の森～冬越し～）早速、茎が対称に付くイノコヅチ等でヤジロベエ遊びをする。ホオ等大きな葉の落ち葉でお面や飛行機を作ったり、アオキの赤い実を指でつまんで飛ばしたり（アオキ鉄砲）、ササの葉キャンディをなめながら歩く。「すごいものがあるぞ！」とトチやコブシの冬芽に触らせると、「ベタベタする」「ふさふさの毛だ」等と、寒さに耐える植物のすばらしさに驚き、感動を分かち合う。サンショウやクサギの枝を虫メガネで覗き「変な顔が見えるよ」と『葉痕』の面白さを発見、『虫の蛹や卵』やロゼットなどを探し、命の力強さに気づかせる。陽だまりにオオイヌノフグリを見つけ、「寒いのに花が咲いている　すごいな！」と歓声があがったりすると最高である。

興味を引くコツ　8期　池田　尚子

時々、子どもたちの自然体験活動に参加しているが、得意な物もなく、男性の皆さんのように、すぐ笛を作ったりも出来ず、いつも悩んでいる一人です。

なかなか子どもたちに興味を持ってもらうのは難しく、特に低学年の場合はどうしていいか迷ってしまう。気を付けているのは、子どもに理解できる言葉で話すこと。専門用語は使わないように、一緒に遊んだり、現物に触ったり、匂いを嗅いだり、自然の感覚を体験してもらい、どうしてかな？と不思議がったり。

高学年になると、学校で習っているような事について話したり、今、流行っている事を話してみたり。観察会では、食べられる物には興味を示すので、アレルギーがあるか聞いて、ちょっとだけ味見をしてもらう。先日も「ヤマブドウ」を持っていたら、「なあーに？」の声、「食べられるんだよ」と言ったら、いろんな実の名前を言ってくれた。先生が代表で試食、食レポしてくれ大受け。

私は、種が好きなので、秋だったらどんぐりの殻斗の違いの観察や、花の写真を用意したり、時には簡単なクイズを用意したりして楽しく過ごすことを心掛ける。

引率で一番困ることは怪我なので、危ない時は、大きい声で注意することも大事である。

勉強してんのか！　13期　相馬　實

高校３年生の10月末、部活動に別れを告げ大学受験に向けスイッチオンしようとした時に、担任に「勉強、どうしたら良いか分からない」と相談しに職員室に行った。返ってきた言葉が「お前勉強してんのか！」の一言。この時、自分自身「ハッ！」と思った。・・・・・・・

原稿依頼の中に「新人にとって子どもたちを引率するのは気が重く、何をしたらいいのか戸惑うものです」というのがありました。新人となれば、養成講座を受講してきたはず。養成講座では、自然観察、自然遊び、自然観察インタープリテーション、ネイチャークラフトなどを学んだはずです。基本的な資料は手元にあるはず。あとは、「お前、勉強してんのか！」と一喝されないよう、自分で勉強するか、先輩の技術を盗んで学ぶことです。このためにはイベントなどに手伝い程度でも構わないので、回数多く参加することが秘訣です。

子どもたちを自然観察会で案内する場合、説明に徹したのでは大失敗に終わること間違いありません。自然遊びを取り入れながら案内するようにしましょう。音が出るもの、飛ぶもの、回転するもの、バランスがとれるものなどが有効です。

原稿依頼では、春から夏にかけての自然観察のネタということでしたが、「お前、勉強してんのか！」で勉強してください。

ひよこインストラクターのよもやま話④

冬至が近くなり昼の短さに改めて驚かされますね。この時期になると特に注目してしまう生き物がいます。高校生の頃、仙台市太白区根岸の県武道館に校舎がありました。そこはカラスの大きなねぐらである大年寺山の下で、ひと冬、外で夕空を見ている時間があり(先生に立たされていたわけではありませんよ)、カラスの面白い生活の一部が発見できました。

夕方暗くなり始めの頃、カラスたちの帰宅が始まります。その時間のカラスは２～５羽くらいで遊びながら帰ってきます。追いかけっこをしたり山の目の前の電線で休んだりと余裕があり、遊び飛びから個体同士の関係性が見られることもあります。しかし日はつるべ落とし！空はどんどん暗くなります。遊んでいたカラスはもう帰っていますが、他にもカラスは帰ってきます。すると暗くなるにつれ、寄り道もせず山を目指して一直線に飛んで行きます。飛行ルート、高度、姿勢、羽ばたき方のどれを取っても無駄が一切無いように見えます。必死に飛んで行くのです。テレビ塔がありますからそれを目印にすれば遠方からも迷わないのでしょうが、せっかく餌を取りに行ってあれ程全力で飛んで帰るのはお腹が空くだろうな、と心配になってしまいます。もしかしてギリギリ組は近くから帰って来るのかな？と思い自転車で下校する際に、空の明るさとカラスの飛行方向・様子を観察しながら帰っていました。観察からギリギリ組は直線で５キロ位は飛んで帰っており、思ったより遠くからの帰宅の様だとわかりました。そしてこの必死な様子は冬期にしか見られません。それほど冬は餌が少なく日も短い為、シビアなのでしょう。空を飛ぶために余分な脂肪が無い鳥類、渡りをしないカラスでも季節で生活が違う。自然の中で生きる強さを感じる発見でした。

（１８期 阿部映美）

不法投棄はだめよ！！

11月23日（金）、14回目となった県民の森クリーンアップ作戦。あちらこちらから「おっ、久しぶり」との声が聞こえ旧交を温める機会にもなりました。子どもたちにとっては生きた環境教育の場となりました。

誰が捨てたか、冷蔵庫や洗濯機

11月19日（月）仙台市青葉区の国際センターで開かれた「宮城つながる森業交流会」において、当協会は森林整備に貢献したとして表彰を受けました。賞状は事務局に飾ってありますのでご覧ください。

知事から賞状を受け取る高橋会長

お願い

来年、協会は20周年を迎えます。記念号を発行するにあたり、会員の皆さんから、思い出の出来事の原稿や懐かしい写真を提供していただきたくお願いいたします。

募集しています

☆会報紙の表紙

表紙を飾る写真・イラスト・絵を募集します。活動中に目にする風景や自然をテーマにお寄せください。

☆紙上講座原稿

皆さんが密かに隠し持っている技術・得意技・情報を紙上で披露してみませんか。

連絡先　事務局まで

【編集後記】先日同期のグループで登山に行きました。天候が悪かったので雨が止んだ時間に予定を変更して低山に登りましたが、登山道横に太い蔦が垂れていて天然のブランコが出来ました。童心になれてたっぷり疲れる良い山でした。（阿部映）先日、近くのメルパルク方面を歩いていましたら、右側に家並みの空間の奥に、法輪寺の五重塔と近隣公園の紅葉がマッチした光景が見られ、それが秋の小京都といった風情を呈しておりました。榴ヶ岡界隈の晩秋の静かな秋といった趣です。（原田）食育活動に触発されて、ジャガイモ、サツマイモ、カボチャ、そしてハバネロを育てました。味は西コミやもりもりの畑に遠く及ばず、カボチャ、ハバネロは実をつけず…。なにが足りない？（進藤）

県民の森管理事務所

２連休の賑わい

所長　12期　蜂谷　仁

11月に入り園内は、冬時間の対応（９：00～16：00）に変わりました。

元気に汗を流せる時期に入った11月3～4日の連休は天候に恵まれ、朝早くから家族連れが目立ち、アスレチックコースは夕方まで大変な賑わいでした。それでもまだ体力に余力がある方々は、芝生広場でバドミントンやフリスビー、竹馬などに興じている家族の方々で溢れんばかりでした。なかでも、アスレチックを終えた家族連れが館内で一休み後にクラフト体験をされるなど、閉館間際までひっきりなしで忙しい２日間でした。

また個人やグループの方々が園内の紅葉を求めて散策されている姿も多く見受けられ、大変嬉しく感じています。

このような日々の中で、迷子やケガ人の発生が無かったことが、管理業務を行っている我々にとっては一番の喜びです。

賑わう芝生広場

ことりはうす

生物多様性プログラム（秋の部）「地域の食文化を知る」を開催

職員　14期　阿部　昇

「ことりはうす」の生物多様性プログラム（秋の部）は、地元蔵王町の里芋（土垂芋）を取り上げ、10月6日に開催しました。

ご近所の畑に出向いての芋掘りと、バケツと板での芋洗いを体験。洗い方が気に入ったらしく、板をなかなか手放さず、お父さんを困らせた小さなお子さんがおられました。

さて、食の方は定番の芋煮鍋は勿論のこと、里芋を串にさし炭火で炙って味噌田楽風にしたものや、ダッジオーブンでこんがりと焼いたものを味わっていただきました。焼き菓のデザートも登場し、皆さん満腹、満足といった顔をされていました。

なお、生物多様性のお話が自然保護課職員の方からあった時に、極めて反応の良い小学生が現れたりして、和やかに進行しました。

里芋　まだ焼けないかなぁ

こもれびの森　森林科学館

「今年度を振り返って」

所長　15期　千葉　敬一

12月1日より冬期休館となります。4月の開館から早いもので8か月が過ぎました。館内のリニューアル工事後、最初の年度でしたが、来館者の評判は概ね良好のようです。「こもれびの森」を案内する施設として、その役割も果たしているようです。

今年度は来館者が施設で楽しむことができるように、館内の遊びのコーナーや、園内の遊歩道・木道の整備をはかりました。そのせいか、来館者の滞在時間が長くなったような気がします。

また、施設の運営に外部の声を反映させるため、評議委員会を設置しました。今後も地域との連携を進めたいと思います。これから施設の屋根や外壁等のリニューアル工事が入りますが、来年の春にはチョット綺麗になった科学館をお見せできそうです。

花山のスイーツ作り

発行　特定非営利活動法人　宮城県森林インストラクター協会

〒981-0121　宮城県宮城郡利府町神谷沢菅野沢４１　青少年の森
TEL&FAX：022-255-8223
メール：mifi@bz04.plala.or.jp　HP：http://mifi.main.jp